平成２８年度
課題別人権教育研修講座Ａ

１　日時及び会場　平成２８年７月２１日（木）13:00～16:00　奈良県産業会館　大ホール
２　参　加　者　小学校１１１名、中学校５４名、県立学校２３名、私立学校３名、その他９名
計　２００名
３　内　　容　13:10～14:00　説明『権教育の手びき　第５７集』の活用について
人権・地域教育課　指導主事
14:10～15:50　講演「学級・集団づくりの方法　つながりと自律を願って
～キーワードは『絶対的自尊感情』～」
講師　大阪成蹊大学教授　園田　雅春

＜内容（概要）＞

(1)　説明　『人権教育の手びき　第５７集』の活用について

・　人権教育における部落問題学習の展開において大切にしたい視点及び活用できる資料等について説明する。
・　『なかまとともに中学校』より「ふるさと」を使い、人権教育における部落問題学習の展開を体験してもらう。

(2)　講演　「学級・集団づくりの方法　つながりと自律を願って」
～キーワードは「絶対的自尊感情」～

＜自尊感情が育つ学級･集団づくり＞

・　「どうせ…」「しょせん…」と下を向いている子に、どのように「被尊性」（大切にされている実感）を育んでいくかが学級づくりの大命題である。
・　子どもたちに「力」を付けたいのなら、まず「欲（意欲）」を持たせなければならない。「欲」を下支えするのが、自尊感情である。「自尊感情」は、人権感覚・学習意欲の源泉であり、生きる力の源泉である。
・　人権教育には、反差別につながる「人権そのものについての学び」と自尊感情を豊かに育む「人権としての学び」が必要。これらが相まった教育を行うことが重要となる。
・　状況的自尊感情、相対的自尊感情ではなく、「そこにいること」「存在そのもの」が大事という「絶対的自尊感情」を育みたい。私たちは、子どもたちについつい「命は大切だ」、「命を大切に」と言うが、それよりも「あなたが大切だ」という言葉を聞くことで救われる子が多数いる。
・　簡単に自尊感情を育むための特効薬はない。だから、学級・集団づくりを丁寧にしていく必要がある。

＜学級･集団づくりのあり方と方法＞

・　学級・集団のイメージとして、目指すべきは「納豆学級」。つながるためにはボンドが必要。ボンドは、大きく分けて３つある。「人ボンド」は先生そのものである。「文化ボンド」は、授業、出来事、アクティビティ、学校行事、自主的自治的活動等である。「第３のボンド」は、つらいことの共有である。豊かなボンドで結果的に納豆学級になるよう取組を進めることが大切である。

＜参加者の感想から＞

・　「自尊感情」という言葉を聞いてから約２０年。先日、「自尊感情の弊害」という記事を読み、これまでの取組に不安を持っていたが、この講演でそうでないことを確かめることができた。また、今後の教育活動に生かしていきたいと思った。
・　具体的な事例をたくさん挙げてお話しいただき、食い入るように聞かせていただいた。「絶対的自尊感情」が子どもたちに広く醸成されるよう頑張って取組を進めたい。
・　学校でも自尊感情を高めるため取組をしているが、「良いところ見つけ」ばかりを意識しているように思う。子どもたちが安心して学校に通えるよう、子どもたちの「絶対的自尊感情」を高めていきたい。
・　子どもの話に耳を傾け、受け止め、共感し、存在そのものを認めるという話に励まされた。「～しなければならない」ということに振り回され、園田先生が話されたこれらのことを忘れていたことがあった。自身の子どもを見る眼を鍛えていきたい。